



# セネガル、今私はここにいます

セネガル派遣 幼児教育  
近藤保子

岡崎市のみなさん、お久しぶりです。お元気ですか？私は現在アフリカのセネガル共和国に幼児教育隊員として派遣されている近藤保子です。2011年1月に日本を出発し2013年1月に日本に帰国します。

今日は2年間の活動報告とともに2011年12月に岡崎市市民協働推進課国際班のみなさまから送っていただいた鍵盤ハーモニカ25台を活用した活動についてもお伝えしたいと思います。

私は2011年2月から2013年1月までセネガル共和国のファティック県教育委員会に

派遣され3園の幼稚園で活動をしてきました。セネガルにはたくさんの民族が共存をされていてそれぞれがお互いの文化や宗教を理解しアフリカの中では比較的平和な国と言われています。セネガルの中でもファティック県は物静かで優しいセレール人が多く住んでいるため治安もよく、日本人の私にとっても大変住みやすい環境でした。

幼稚園では大人に対してはフランス語、子どもに対しては現地語であるウォルフ語、セレール語でコミュニケーションをとっています。言語が苦手な私にとっては最初から最後まで苦労をしましたが、言語が苦手なことでもいろいろなことを工夫しながら活動に取り組みました。

私の活動は主に子どもが主体的に取り組める活動紹介です。現場のニーズもあり子どもたちの製作を組み合わせたクラスの飾付（空間構成）の提案や、音楽に力を入れ取り組んできました。日本では子どもの個性を尊重し、主体的、自発的行動を大切することは当たり前で

すが、セネガルでは教師指導型であり、先生のまねをするのがよしとされています。子どもの個性を認めるという価値観が浸透していないため、先生の意に添わずたたかれる子どもたちの姿も何度も見ました。しかしそのことに対して全てを否定するのではなく、先生方と気持ちを通わせながら私自身の意見もぶつけていきました。なぜならば先生方もそのように育ててきたのでそれが当たり前であり、子どもたちのためであると思っているからです。製作活動を先生



方と協力して取り組む中で、子ども一人ひとりの個性や発達段階が違うこと、作品は上手、下手で判断するのではなくいいところを見つけてその子自身の頑張りを褒めることなどをその都度伝えていきました。いろいろな葛藤はもちろんありましたがそれは当たり前のことと自分でも気持ちを切り替え日々の活動に取り組んでいきました。そして、子どもも楽しめ、先生方も喜び製作がひとつ、またひとつと増えていくことで私の居場所もできていき帰国前での活動ではほぼ全クラスの先生から声がかかり自分でも驚くとともにセネガルの先生方や子どもたちの喜び活動ができたことを嬉しく思いました。



もうひとつの活動として音楽に取り組んできました。セネガル人は音楽と踊りが大好きです。歌と踊りをするだけで言葉がなくともコミュニケーションが取れてしまうほど人々の生活に根付いています。私の活動では伝承音楽とともに、鍵盤ハーモニカを使用しながら新しい音楽も伝えていきました。初めて聞く鍵盤ハーモニカの音に先生も子どもたちも興味津々で楽しく音楽に取り組めることができました。

今まで歌を歌うとき各園の先生によって音程やリズムが違うということが何度もありました。鍵盤ハーモニカを使用することで正しい音階やリズムで歌うことができます。子どもたちは音を聞きながら歌を覚えたり、音に合わせてたりしながら歌うことを楽しく学ぶことができました。



私が日本に帰国後もできるだけ子どもたちにこのような経験をする機会があればと思い、先生方に鍵盤ハーモニカの技術伝授を考えていたところ、配属先の上司や活動先の先生からも鍵盤ハーモニカの導入の要望があり、私と同じような気持ちであるということが分かりました。そこで、自分の生まれた市である岡崎市の国際班の田中さんにご連絡をさせ

ていただいたところ快く承諾してくださり、**2011年12月に25台**の鍵盤ハーモニカがセネガルのファティック県教育委員会に届きました。それと同時に岡崎市の皆様からの温かい思いを受け取り、この思いを無駄にしないよう教育現場に鍵盤ハーモニカが浸透するように日々の活動に励むことを再度心に刻みました。

配属先の上司の許可を得て最初の9台は活動先である3園の幼稚園に配布しました。その際に、鍵盤ハーモニカを子どもたちのために活用をしてもらうことを約束してもらいました。活動時には一人15分ほど毎回練習時間を取ってもらい先生方も鍵盤ハーモニカが少しずつ弾けるようになり、先生方の自信にもなっていました。このような活動を進める中で問題にぶつかりそのたびに悩むこともありましたが、新しいことに取り組むには根気と忍耐、笑顔が大事であることを学びました。先生や子どもたちの笑顔が私の支えでした。



**2012年5月12日**には、配属先と共催し幼稚園3園、小学校2校、教員養成校が連携し情操教育発表会を同任地の隊員とともに開催しました。情操教育発表会には子ども207人、教員養成校の生徒30人、各園、各小学校の園長、校長、配属先の上司4人、保護者多数が集まり約400人の人々がこの発表会のために会場に足を運んで下さいました。セネガルの行事では予定の開始時間が3時間遅れるのは当たり前まえにもかかわらず、ほぼ時刻どおりに始まり、

また終了することができました。周りの先生方からは「普段の行いがいいから神様が成功に導いてくださったんだよ。」という温かいお言葉もいただきました。発表会の内容としては、子どもたちの普段の活動の成果を発表する、情操教育の浸透、意識向上、JICA,日本紹介、現地の先生方が鍵盤ハーモニカを使用し子どもたちが歌う姿を見てもらうことを行事開催のねらいとし取り組んできました。ファティック県では毎年各校で年度末に発表会はあるものの、このようにファティック県の教育機関が連携し行事を行うことは今までになかったので配属先や活動先、また保護者からも大変喜ばれる会となりました。反省する点はたくさんありましたが、無事に大きな行事を終えることができ安堵の気持ちでいっぱいでした。また、私たちボランティアの活動や鍵盤ハーモニカを現地の方々





2012年10月19日にはファティック県教育委員会をあげて活動先の幼稚園、小学校、教員養成校の先生方計34名が集まり鍵盤ハーモニカ研修会を開催させて頂きました。遠方の先生では片道2時間かけこの研修会に来てくださった方々もいっしょり感謝の気持ちでいっぱいになりました。この研修会では、鍵盤ハーモニカの技術伝授だけでなく、どのような思いで鍵盤ハーモニカを各ボランティアが調達し、また、どのような思いを込め

現場の先生方に届けようと思っているのかということを知らせ、先生方が鍵盤ハーモニカを子どもたちのために使おうという意識が高まるようなプログラムに仕上げました。私がボランティア活動を始めたばかりのころ日本では大きな震災が起こり、多くの方が亡くなりました。その時はあまりのショックで何日間か眠れず、泣いていたことを思い出します。そのような母国への思いを抱きながら日々現地の子どもたちや先生方の喜び活動ができるように取り組んできました。私は今回の研修会で日本の現状についても知らせたいと思いました。現地の方には『日本はお金持ち』という思いがあります。お金持ちだからいろいろと支援できる。という気持ちがどこかにあり支援されることが当たり前であるという風に思っ



てほしくなかったからです。この鍵盤ハーモニカ一台一台が市民の税金で届けられているという重みも分かってほしいという思いから、震災での映像、ボランティアの活動、先生方が鍵盤ハーモニカに取り組む姿を収めたDVDをつくり、研修会前に先生方に見ていただきました。

また、今回の研修会はボランティアが主でなく、現地の先生方が主となり研修会を進め、鍵盤ハーモニカの取り扱い方や弾き方などをボランティアとともに講習を行っていただきました。その後は上司であるファティック県教育委員会の視学官が中心となり鍵盤ハーモニカ導入についてのディスカッションを先生方としてくださり各々の意見が出され大変いい研修会となりました。確かに、今までなかったものを浸透させるのは難しいことかもしれませんが、しかし、先生方が子どもたちを思う強い気持ちが伝わってきて大変嬉しく、勉強になりました。現在は、研修会に来てくださった先生方に向けボランティアが各学校に行き鍵盤ハーモニカの技術のフォローアップをしています。私が言語に悩んでいたときに上司がこのような言葉をかけてくれました。



**Petit à petit l' oiseau fait son nid.** (鳥は自分の巣を少しずつ作り上げていくということわざ) この言葉のように、何事もあせらず少しずつともに積み上げ、先生方が子どもたちのために鍵盤ハーモニカに取り組むことができるよう期待しています。



最後に、**2012年11月17日**にファティック県教育委員会が主催し優秀な児童、生徒、先生、校長、校長会、協力団など教育に関わる功労者を表彰するためにイベントが初めてファティック県で開催されました。会場には教育省や県知事はじめ600名の方が集まりました。その中で私を含めJICAボランティア3名もファティックの教育に貢献した一人として配属先の上司より表彰をしていただきました。私はこの賞が嬉しいのではなく現地の方に喜んでいただける活動が2年間にできたことが大変嬉しく、また今まで支えていただいた人々に感謝いたしました。私がこのような活動に取り組むことができたのも岡崎市の国際班の皆様はじめ、市民の方々のご支援があったからです。私はボランティアとしてアフリカのセネガル共和国に派遣され2年がもうすぐ経とうとしています。悔しいこと、悲しいこともたくさんありましたが、セネガルの方々の優しさや前向きさに何度も心を救っていただきました。本当に素晴らし2年間でした。残りあと1カ月ですが安全、健康に気をつけ元気に日本に帰りたいと思います。今まで支えてくださり誠にありがとうございました。

